大阪市教

2023年 7月6日
VOL. 604
（一部30円。購読料は組合費に含む）

わくわくひろば
社会科だって楽しい②
7月17日（月・祝）
アネックスパル法円坂

発行　大阪市学校園教職員組合　大阪市中央区法円坂1－1－35（大阪市教育会館内）
TEL 6910-8700 https://osaka-shikyo.org/
FAX 6910-7990 E-mail o-sikyo1@sea.plala.or.jp

困ったときは女性部

女性部総会が6月24日に行われ7支部26人が参加しました。

全員の討論で多忙すぎる問題が具体的に浮き彫りになりました。「小学1年生にはフォローがいるのに人が配置されていない」「介助が必要な児童の特別支援。クラスに入れない児童のフォローなどもあり人が全く足りていない」「給食主任の仕事が大変すぎる。すべての学校に栄養教諭が必要」「ICTが進み過ぎてわからない。もっといい方法はないのか」「4年ぶりの担任で大変。なんでもかんでもスキップ。歯科検診の結果の入力など必要なのか？紙じゃだめなのか？」「ミマモルメに欠席連絡だけでなく『先生を怖がっています』など書き込まれてつらい」「体育で石を投げる児童を他の児童から離して見学をさせたことに対して、保護者から『体罰では』と言われ、反省しながら対応しているが、なかなか保護者の理解が得られない。一回の失敗でだめだと決めつけられるのは社会の生き苦しさ・自己責任からだろうがつらい。話せてよかった」。

また、女子トイレに生理用品を置くことが進んできたことを受けて、「生理用品を学校のトイレに設置されていて自由に使えるというのは、子どもたちが、自分たちは大切にされているというメッセージを受け取ることとなる」という発言や、生理休暇などの権利について説明などを一覧にした『困ったときは大阪市教女性部』のパンフレットを手に、「これ、すごくいい！さらに発展させていきましょう！」という発言がありました。

参加している子どもたちの元気な声も加わり、「集まれば元気・語り合えば勇気」を強く実感できました。そして、参加者から感想が届き、さらに元気と勇気が湧いた総会となりました。

○どの学校も困難を抱え、怒りや悩みを持たれている方が多いことに毎回思い知らされます。それでも課題に立ち向かい、よりよい職場にしようと懸命に取り組まれている皆さんに勇気をいただいています。討論で、日々頑張っておられる若い先生が保護者の対応に心痛めて「たった一回の失敗を…」と言われていましたが、私は失敗だと思わなかったです。指導がしにくくなってきましたが、励まし合って前向きに仕事ができる仲間がいることに安心感を抱いています。すてきだなと感じたことは大ベテランの先生方が生き生きと仕事を続けられていることです。笑顔で話されている大ベテランの先生方に勇気をいただきました。

各支部大会での声

多忙、管理、人がいない

○職場交流では、市の「働き方改革」に対し「人員を増やさずに何が改革か」との声。特に若手の教員が過度の研修と自己責任論の横行で心身が疲弊。困難な状況でも、「明日を語れる立場を放棄しない」支部の方針に則り、交流会でもたくさん語り合いました。（9日北大阪支部）

○大雨対応の市教委方針で学校が混乱した。児童情報のスキップ入力に時間がかかる。ゆとりの日でも19時まで。職場の環境を改善したい。転任して組合があって良かったと実感した。共同学校事務室は「欠員の穴埋め」。今日はここにきてうれしいです。プールを業者が清掃。（9日東南支部）

○（中）1年学年主任が「講師」。学年8人中5人が新転任。宿泊学習後に3人がコロナ感染。1週間5人で授業を進めた。（小）前校長のパワハラ、校長室で3時間も「指導」。特支担任8人中、前年度からの継続は講師の私だけ。他7人は新担任（9日西大阪支部）

○11分会、14名が参加。道徳教育、これからどうなっていくのか。人がいなくて大変！少ない職員でいろいろかけもちして、みんな頑張っている。児童数が増えてくると指導が大変。部活動を頑張っている先生たくさんいる。担任の先生を元気づけられるようにサポートしたい。（23日港支部）

○成績処理、研究授業、懇談、林間と超多忙。小規模校では、校務分掌が多く仕事に追われ疲れ果てている。人手不足で特支の状況が厳しくなってきている。年休を取るのも罪悪感を感じる。共同学校事務室は相互管理・監視システム。（30日城北支部）

事務職員部

6月17日、事務職員部は総会を開催しました。退職者が多く寂しい気持ちの中ですが、今年度から、給食費が恒久に無償化され、次は、学校徴収金の無償化をめざそうと意見交換しました。本部の宮城委員長挨拶では、冒頭、前内閣でもしなかった政府の大軍拡路線を批判しました。また、市対連の要求書に修学費無償化を掲げ、将来的に教育費無償化をめざしていくと報告がありました。総会は、とりくみを確認し、現場の交流を中心に話しました。特に、本来、教育委員会がすべきことを学校現場・事務職員に押しつける傾向があるのに対して、要求書ではっきりと示していこうと意思統一しました。

教採突破講座

校種別一次面接対策

教採突破講座②「エントリーシートの書き方と一次面接対策」を6月17日に行いました。前年度合格者Aさんの「合格体験談」では、「筆記試験のデータ分析」や「自分の経歴に自信をもって面接に臨む」ことなど、常勤講師をしながら初めての教員採用試験に取り組んだ体験を語りました。エントリーシートでは、「学歴・職歴」欄にも担当した教科や校務分掌などを記入するなど深め合いました。

幼稚園・小学校・中学校・養護教諭のグループに分かれ、受験校種に合わせた面接練習を行いました。

受講生からは「実際に面接練習をすることで、自分の改善点がわかりました」などの感想が寄せられました。

母親大会

戦争への道許さず 平和な未来を

第67回大阪母親大会が6月17日クレオ大阪中央で開催され、オンライン参加と合わせ850人が参加、大阪市教女性部も参加しました。ファゴットとクラリネット演奏で始まり、演奏者の渡邊悦郎さんが「すべての武器を楽器に変えよう」と語りました。

松永律実行委員長はあいさつで、今国会で自民・公明・維新・国民党が悪法を強行可決したことや戦争する国つくりの動きを批判。力を合わせれば大きな力になる。母親運動の正念場だと発言。カジノはいらんの声を上げていこうと訴えもありました。

作家の故井上ひさしさんの三女で劇団こまつ座代表、井上麻矢さんが記念講演。「9条の会」の呼びかけ人でもあった父が日本国憲法は戦争や原爆で亡くなった人々の声なき声だと言ったこと。人間は笑いを持ってないから、言葉を大事にして脚本を書いたこと。子ども時代の父親とのエピソードも披露。

運動交流では、学校給食無償化、公害のない大阪、最低保障年金を目指す運動など23団体が交流。読売テレビの子会社による不当解雇と闘っている女性も訴え、連帯の拍手に包まれました。

仲間が増えた！

臨時教職員のつながりで青年部総会に参加し加入

臨時教職員として働くAさんは職場の人間関係で悩んでいました。大教組の学習会でBさんと出会い、悩みを聞いたBさんは、臨教部Cさんに連絡をし、青年部総会の日に会って話をすることにしました。Cさんだけでなく、青年部の参加者が話を聞き、はげます言葉をかける中で、Aさんは希望を持って組合加入を決意しました。抱えるさまざまな問題に向き合いながら仲間を増やしましょう。また、市立高校の府移管に伴い市高教の組合員が大阪市教に加入しました。

うれしい加入が続いています。あなたの周りの人にも声をかけ、まず1人、なかまを増やすとりくみをすすめましょう！